

なんもく 山村ぐらし通信

新型コロナウイルスの影響により、「山村ぐらし通信」の夏季発行は見合わせていただきました。ご了承願います。(編集スタッフ一同)

協議会の活動を振り返る

に「新しい生活様式」なんて言葉が飛び交うとは思

増え続ける空き家。都市部でも高級住宅地に限界集落が存在すると聞きます。代替わりをしても、そこに住み続けられたいのだけれど、現実はそのほか、その勢いは変わらないように見えます。

平成22年12月に発足した南牧山村ぐらし支援協議会(以下、協議会)も、あと少しで10年目を迎えます。この時期

もせず、由村ぐらし通信も夏季号の配布ができませんでした。そこで今回は、協議会活動の歩みを振り返りつつ、活動を紹介していこうと思います。

平成22年、増え続ける空き家の利活用を目指して、住民有志により協議会を設立。翌年2月〜8月までの約半年間、村内の空き家の情報収集や目視による調査を行い368戸の空家を確認、所有者の意思確認ができた物件から内部調査を行い、村のホームページに掲載した空き家バンクに掲載しました。

平成24年、南牧村への移住を促すため、南牧村マスコット「なんしいちゃん」を用いた看板を磐戸地区に設置しました。また、村の生活体験用の「なんもく暮らし体験民家」を雨沢地区に開設

NEW FACE 協議会メンバー紹介



地域おこし協力隊に任命された宮崎大輔です。出身は広島です。よろしくお願いたします。

平成24年、南牧村への移住を促すため、南牧村マスコット「なんしいちゃん」を用いた看板を磐戸地区に設置しました。また、村の生活体験用の「なんもく暮らし体験民家」を雨沢地区に開設

し、令和元年までの7年間で28件、延べ1017日の利用がありました。年平均では4件145日。1件当たり約36日利用されています。すぐ成果には結びつきませんが、移住への一歩を踏み出せる施設だと思えます。

最後に、協議会の活動も会員や村民の方々、村役場、県のご理解とご協力により、ここまで続けてこられました。感謝申し上げます。日本創生会議のレポートで、にわか注目されたり、全国で3軒に1軒が空家になったニューズが流れたり、空き家特措法が出来たり、都市集中か地方分散化をAIに予測させたりと、人口や空き家問題では色々ありました。移住相談も、都市部に向かずリモートでのやり取りに移っています。違和感を感じつつも慣れるしかありませんが、やはり南牧村を訪れてもらうことが肝心だと思います。

移住希望者が気兼ねなく来村できる日が来ると信じ、これからも取り組んでいきます。 (金田会長寄稿)



雨沢地区に開設した「なんもく暮らし体験民家」。昨年までの7年間で28件、延べ1017日の利用があった。

2020(令和2)年11月発行
通巻第34号版(秋季号)

発行責任者・発行元:
南牧山村ぐらし支援協議会
問合せ:南牧村役場
村づくり・雇用推進課
協議会事務局
電話:0274-87-2011(代)
紙面編集:松林・高柳



協議会QRコード

協議会HP
<https://nanmoku.org/>
活動内容や各種情報を
随時更新中!

【R2年度4~9月
空き家問合せ件数】

- 電話:24件
(4月 1件)
(5月 6件)
(6月 3件)
(7月 2件)
(8月 5件)
(9月 7件)
- メール・手紙・FAX:63件
(4月 8件)
(5月 11件)
(6月 12件)
(7月 10件)
(8月 17件)
(9月 5件)
- 現地物件見学案内:18件
(4月 4件)
(5月 0件)
(6月 4件)
(7月 3件)
(8月 4件)
(9月 3件)

【協議会ウェブサイト
訪問・閲覧状況報告】

※4/20-10/22(約180日)
ページ閲覧数 244,666
サイト訪問数 13,261
サイト訪問者数 8,763
平均ページ閲覧数
1 訪問当たり18ページ

タイムマシーンなんもく号

伝統ある六車の八木節

トロンコト、トロンコト、トロンコト、トロンコト、昔から村中に鳴り響くのは、この音頭。花笠と、尺八と、祭囃子と、人と人。夏祭りやカラオケ会で披露されていた南牧伝統の八木節は、今ではもう六車の保存会しかやってない。

群馬県人にとって、八木節がどれほど県の文化として親しまれているのか、私にはまだわからない。それでも、移住して二年半しか経っていない私にとっての夏の風物詩は、この八木節音頭になってきている。

写真にあるのは、何十年前、小沢区で八木節が踊られていた時の写真である。写っている人に見覚えがあるという方もまだ沢山いるだろう。小沢区で八木節が踊られなくなって幾年も経過した今、小沢区に住む私は、六車八木節保存会で踊っている。六車から小沢に引越してきて、こっこの生活にすぐ馴染めたのは、部落ごとに流れる固有のリズムを踊りが繋げてくれたからかもしれない。

音楽とは、その土地の生活リズムによって生まれてくるものだと思う。忙しく生きていけば、早い音楽に。悠々



畑を守り、山を守り、伝統を守る。そんな積み重ねが今の六車八木節保存会に繋がっているとすれば、私はこれからも南牧村で、この八木節を踊り続けたい。
(佐藤祐太寄稿)

なんもく・山村ぐらし通信

今年の南牧川

秋の行楽シーズンもす
っかりひと段落でしょう
か。例年でしたら登山客
などの村外の方々も大い
に歓迎ですが、今年は新
型コロナウイルスへの新
しい生活様式を模索中に
つき県外ナンバーの車に
敏感になってしまいいな
とも複雑な心持ちでし
た。

思い起こせば、今年の
夏も特別に川遊びの家
族連れが多く見受けられ
ました。三密を避けてのレ
ジャーに、自然と触れ合
う登山や川遊びはうって
100%を超えて車が溢

にぎやかな南牧川



れかえるようでした。
外出自粛だった今年の
夏、川遊びとして南牧に
初めてきた人もいたでし
よう。願わくはコロナが
落ち着いた後も自然を体
験しに南牧村に来てほし
いものです。

高橋寄稿

県職員からみた

南牧村

昨年度の4月に県の
移住担当となつて、あ
つという間に1年半が
経ち、この間、南牧村
とは公私共にいろいろ
と関わらせていただき
ました。

ここ数年、なんだ

か村に活気がでてきた
かな?」とは感じてい
ましたが、この1年半
でそれが確信と変わ
り、自分なりに要因も
見えてきました。それ
は、なんと言つても、
協議会のメンバーが本
気で村の未来のために



マスク着用の新しい会議様式、県からも毎回参加しています。

取り組んでいるからです。
誰にやらされているでもな
く、自分のできることを当
たり前に、そしてメンバ
ー同士しっかりと連携して
いる姿を見ると、その活動が
村に活気を呼んでいるもの
だと確信することができ、
自分をはじめ県職員も見習
わなければと心が引き締め
る思いです。

我・想・明・村

自分にとって わくわく
する村」という言葉がびっ
つりの南牧村。これからも
もっともっと わくわく
していくため、微力ながら
も、関わっていきたくと思
います。

① 水はけのよい斜面を利
用しての本格的なブドウ栽
培とワインの製造・販売☆
なんもくワイン赤」なん
てネーミングでどうだろ
う? 売れそうな気がする。
しかも美味しそうな気まで
してくる。

② 地形を利用したアスレ
チックフィールド運営☆シ
ンプルだが大人から子供ま
で楽しめる利用料金もリー
ズナブルに設定。☆つねに
新たなアイデアをかたちに
して他には無いようなアス
レチック遊具を展開。☆ロ
コミが広がり、休日には都
市部からのファミリーで賑
わい、徐々に飲食等設備を
整えてゆくぞー!と、激し
く妄想。

③ ハイキングコースの整
備と集客運営ビジネス☆現
在確認されているハイキン
グコースは有用。☆それぞ
れのルートにネーミングを
おこない、中途半端ではな
い整備をおこなう。☆整備
済みのルートに有料 管理
費)として、首都圏に埋も
れている膨大な数のハイキ
ング愛好家・自然大好き人
達をターゲットとしてビジ
ネス展開をもくろむ。☆当
然のことながら専任の営業
を雇用。首都圏及びターゲ
ット圏内で旅行会社等に猛
烈アタック! 週末度に大
型バスが連なってくる様子
が目に見え…。)

④ 宿泊 & 入浴施設運営
待てよ! これはちよつと
危険かな? ☆かなりリス
クをとまなうが、上記観光
ビジネスを定着させてゆく
うえで拠点となる施設群は
あったほうがよいだろう
な。☆それぞれのコース近
辺で古民家を改修し、拠点
となる山荘を点在させるっ
ていう手もありかな…。

⑤ ユニークな構造の古民
家シェアハウス運営。☆構
造を活かした隠さない古民
家シェアハウスとして改修
する。☆一階部分に遊び心
と実用性、僻地ならではの
必要性などを取り込んだ共
用スペースとワークスペー
スを配置。☆コインランド
リーがあったらいいなあ。
自販機も数種類。意外と利
益が出るらしいから…。取
らぬ狸のなんとやら) ☆二

階部分はブースとして個室
化し、有料設定で賃貸とす
る。☆営業・広報が必須。
⑥ リフォームされた古民
家を複数管理運営。☆年間
契約貸別荘やテレワーク施
設としての運営。☆企業の
福利厚生施設としての契約
☆場所と古民家の紹介を行
い、改修にかかる費用 & 改
修後の維持管理費を企業側
で負担。維持管理を業務と
して請負うという交渉も可
能性あり。 企業側にとつ
て社会貢献、地域貢献の一
環として企業価値を優良付
加できる。)

その他妄想は多岐にわた
り、泉の如く湧き上がって
くるため割愛させていただ
く。どこかにきっかけが落
ちていないものかと気を配
りながらも、日々の生活と
取り巻く環境を守ることに
その大半を費やすばかりの
日々のもどかしさ。仕事と
して関わることができない人
材の必要性を常々感じてい
るこのごろなのです。それ
ぞれの世代人にとって『こ
の村で暮らしていこう!』

『この村で暮らしてみたい!』
と思ってもらえるよ
うな基盤となる事業。個々
の生活に必要な十分な基盤と
なれるような仕事が生り出
せないものかと、すでに白
髪に占拠されつつあるこの
頭のなかでは、たわいもな
い妄想が堂々巡りをしてい
るのです。
く匿名希望

南牧村の古い写真を探しています

昔の南牧村の様子や生活、
構造物や行 データとして撮影、
保存させていただきます
事等を記録した古い写真を
探しています。集めた写真は
通信や協議会HPの
す。写りが悪くても、折れて
曲がっていても大丈夫! ぜ
ひいちど引出の奥を覗いて
みて下さい。お知らせ頂
ければ、おに活用させて
いただきます。 同いし
たりお借りする方法で、
デジタル く役場づくり
・雇用推進課高柳まで